

令和5年度私立高校新入生の保護者を対象とした 高校選択満足度調査の結果について

令和6年3月
大阪府教育庁私学課

大阪府では、子どもたちが、中学校卒業時の進路選択段階で、自らの希望や能力に応じて自由に学校選択できる機会を保障することを目的に、平成23年度の新1年生から、私立高校の授業料無償化制度（私立高等学校等授業料支援補助金）を実施しています。

この無償化制度の効果検証の一環として、令和5年4月に入学した私立高校生の保護者を対象として、高校選択に関する満足度調査を令和5年12月から令和6年2月に実施しました。

本調査は、平成23年度以降の新入生に対し、毎年度実施しており、今年度で13回目の実施となります。

【調査結果の概要】

- **入学した私立高校を選んだ理由は、「進学（就職）に実績があること」が74.8%で、最も多かった。**

入学した私立高校を選んだ理由について、理由となったという肯定的な意見としては「進学（就職）に実績があること（74.8%）」（R4:75.1%、R3:70.2%）が最も多くとなっている。次いで、「希望する学科やコースがあること（73.8%）」（R4:75.1%、R3:69.4%）が多い意見となっている。

- **在籍校に対する満足度は、「全体を通して満足している」という肯定的な意見が86.9%であった。**

在籍校に対する満足度は、「特色ある教育活動」「学校行事」「進路指導面」「学習指導面」「教員」「施設・設備面」「生活指導面」に関して満足しているという肯定的な意見が8割を超えたほか、「部活動」においては肯定的な意見が7割を超えた。「全体を通して」では、86.9%（R4:89.2%、R3:76.2%）が肯定的な意見であった。

- **「授業料無償化制度が、私立高校への進学に影響した」とする割合は、全体で73.5%であった。**

大阪府内に在住する保護者のうち、授業料無償化制度が、私立高校への進学に「大いに影響した」又は「ある程度影響した」を選択した割合は、世帯の年収で区分して見ると、年収590万円未満世帯では92.3%（R4:97.1%）、年収590～800万円未満世帯では78.6%（R4:86.7%）であった。

【満足度調査について】

1 目的

令和5年4月に入学した私立高校生の保護者を対象として、学校等に対する満足度、授業料無償化制度の認知状況や進路選択に与えた影響などの調査を実施し、授業料無償化制度の効果を検証するとともに、今後の施策検討の参考とする。

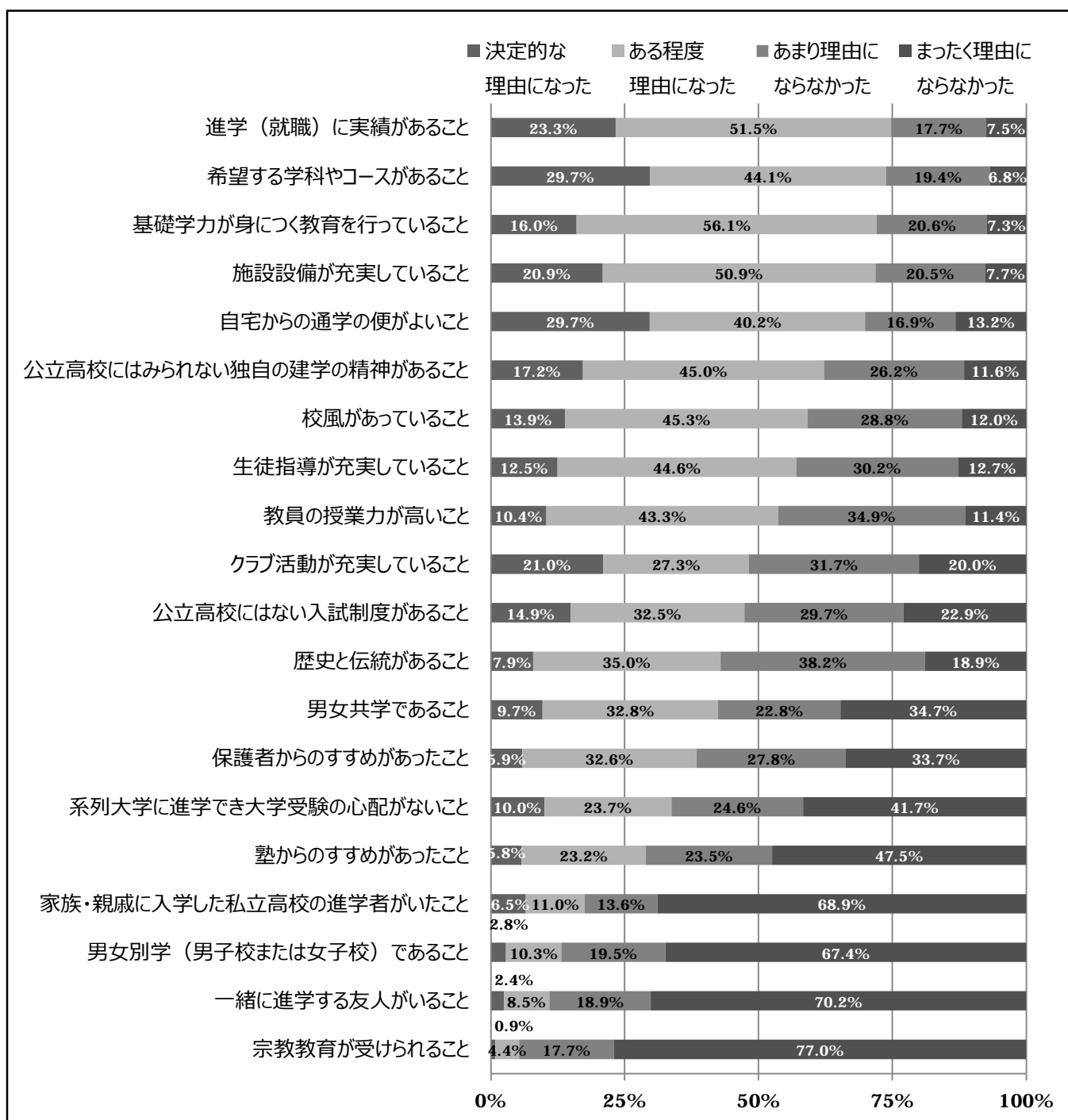
2 対象

令和5年4月に府内の全日制私立高校（93校）に入学した高校1年生のうち、各校が選定したクラスに属する生徒の保護者

3 実施方法

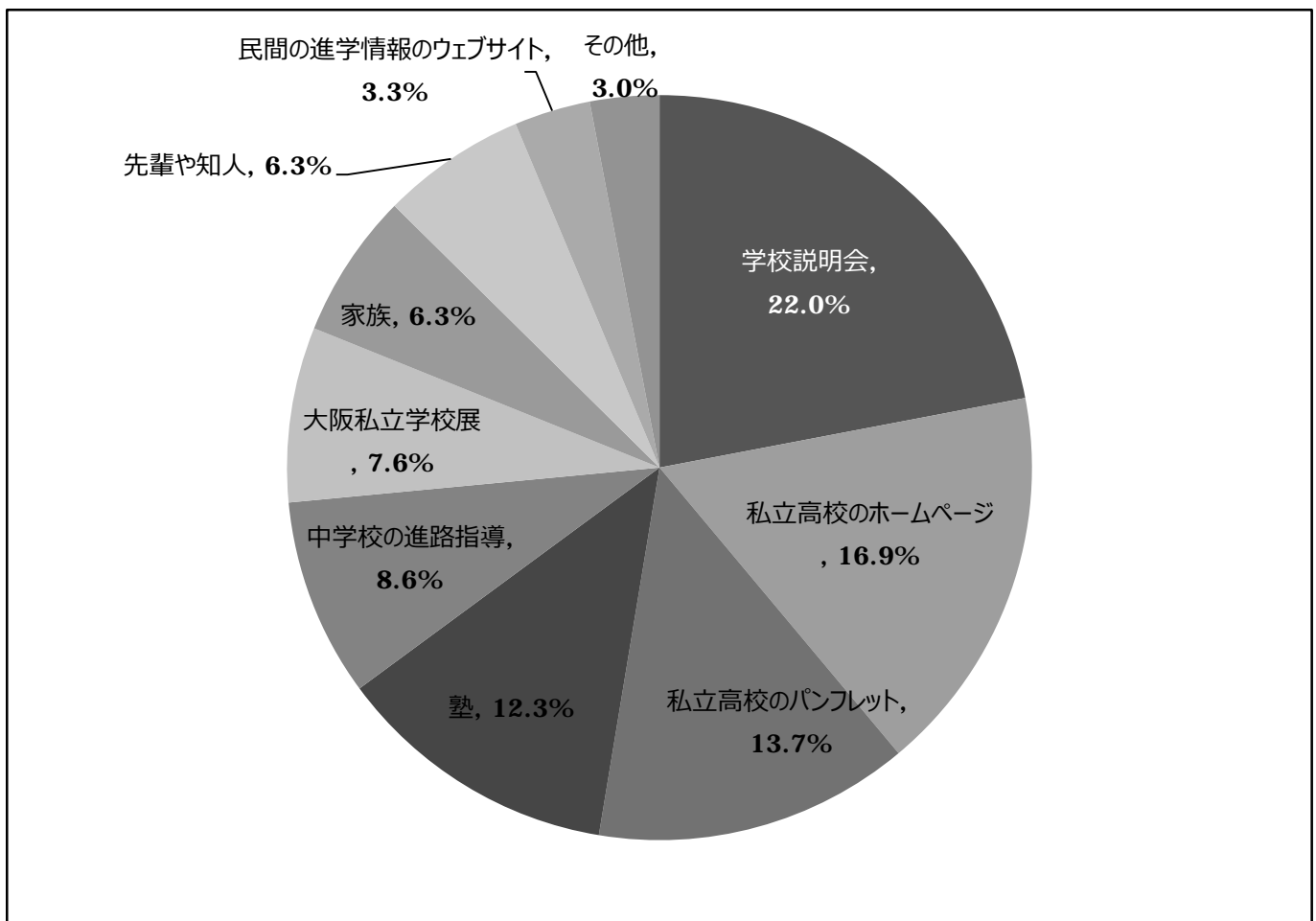
今年度よりWEBによるアンケート実施に変更。令和5年12月から令和6年2月までに3,764人（R4:1915人）の保護者から回答を得た。

問1 入学された私立高校を選ばれた理由についてお聞きます。



- 入学した私立高校を選んだ理由は、「進学（就職）に実績があること」が74.8%と最も多い
 ※令和4年度調査：「希望する学科やコースがあること（75.1%）」「進学（就職）に実績があること（75.1%）」が最も多かった
- 入学した私立高校を選んだ理由について項目を示して聞いたところ、「決定的な理由になった」と「ある程度理由になった」を合わせた肯定的な意見としては、「進学（就職）に実績があること（74.8%）」（R4:75.1%、R3:70.2%）が最も多く、次いで、「希望する学科やコースがあること（73.8%）」（R4:75.1%、R3:69.4%）であった。
- 「あまり理由にならなかった」と「まったく理由にならなかった」を合わせた否定的な意見としては、「宗教教育が受けられること（94.7%）」（R4:93.7%、R3:89.9%）が最も多く、次いで「一緒に進学する友人がいること（89.1%）」（R4:88.3%、R3:84.5%）であった。

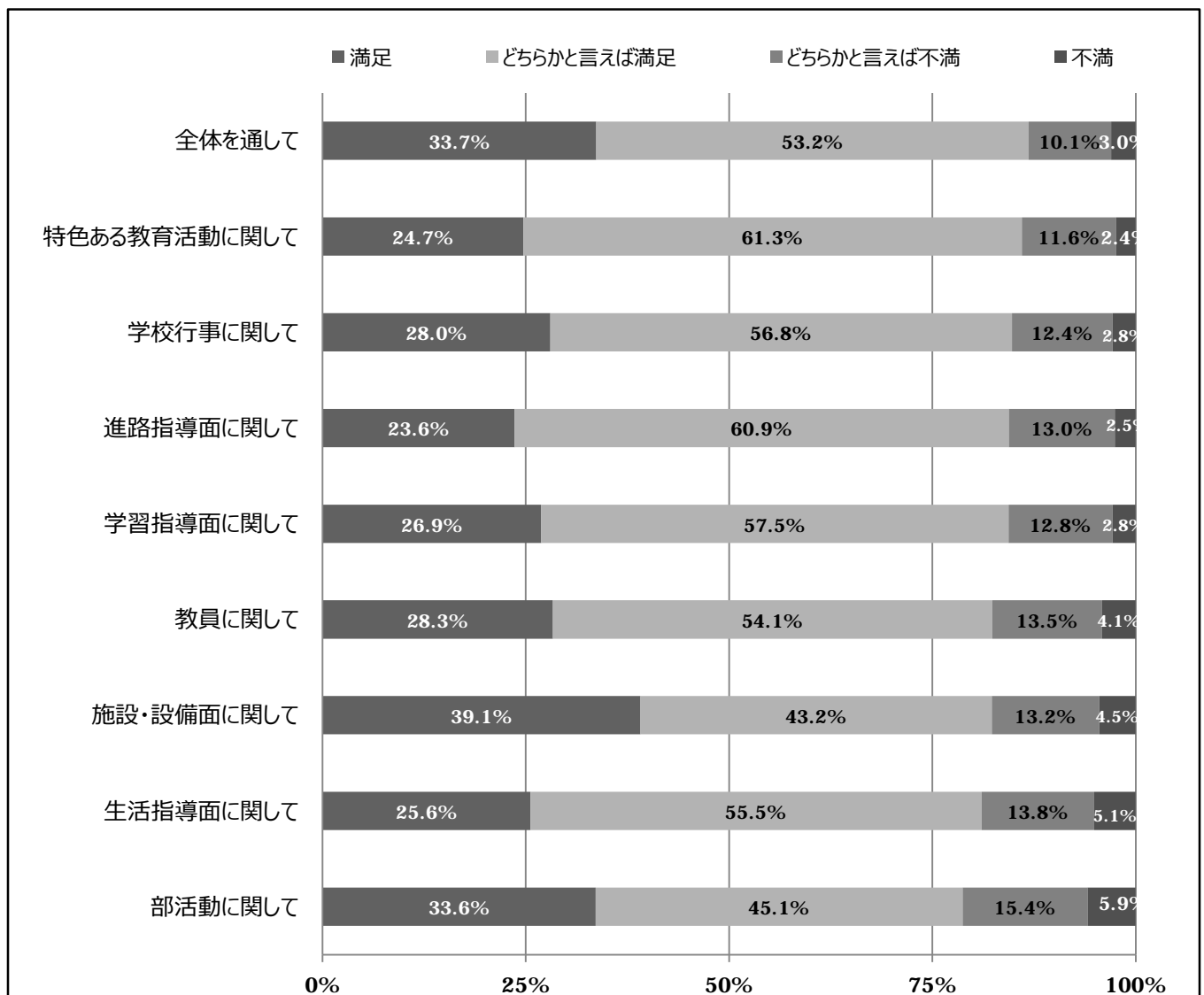
問2 私立高校の情報はどのようにして、あるいは、どなたから入手していましたか。(複数回答可)



○ 私立高校の情報は、「学校説明会」で入手しているとした割合が最も多く 22.0%となっている。

- 私立高校の情報の入手方法について聞いたところ、「学校説明会 (22.0%)」(R4:21.9%)の割合が最も多く、次いで「私立高校のホームページ (16.9%)」(R4:17.4%)、「私立高校のパンフレット (13.7%)」(R4:13.5%)、「塾 (12.3%)」(R4:13.4%)の順で多く、6割以上の方がこれらのうちいずれかの方法により私立高校の情報を入手しているという結果となった。
- また、ほかの方法として、「中学校の進路指導 (8.6%)」(R4:9.1%)や「大阪私立学校展 (7.6%)」(R4:7.0%)、「家族 (6.3%)」(R4:6.5%)等も少数ながら選択されている。

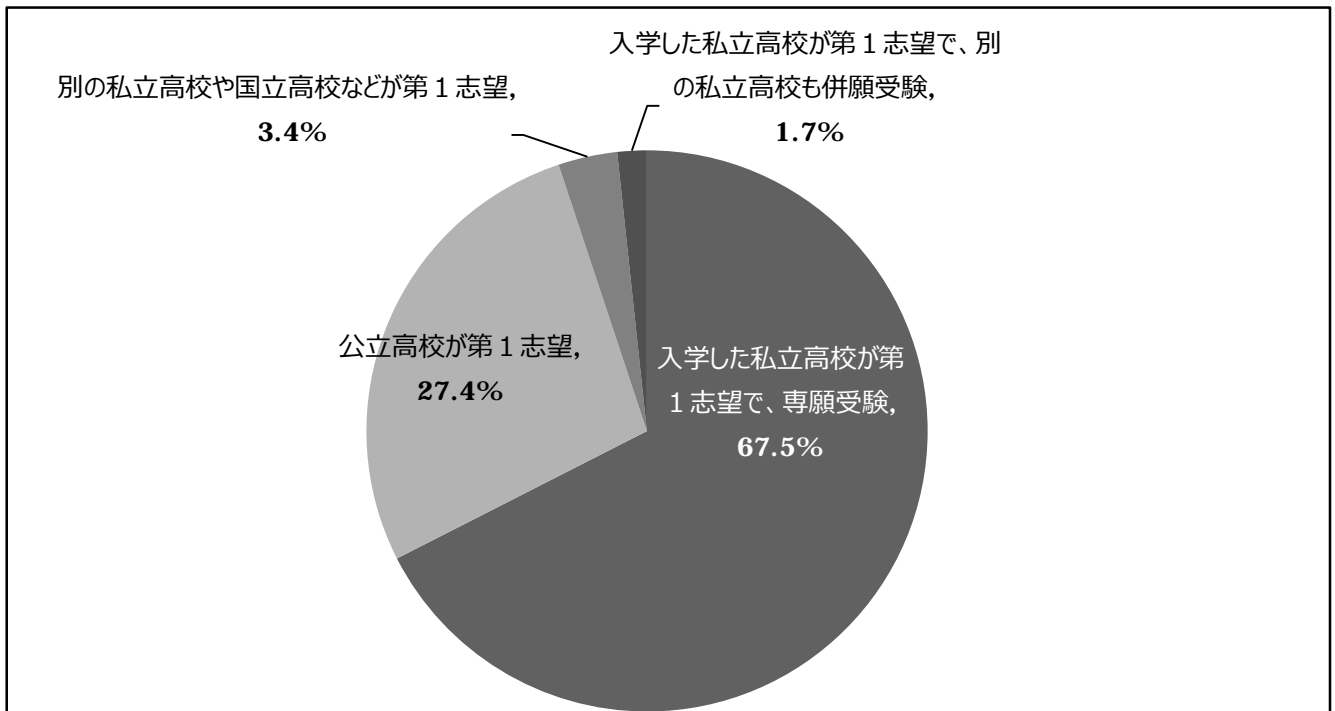
問3 入学された私立高校に満足していますか。



○ 入学した私立高校に対する満足度は、「全体を通して満足している」という肯定的な意見が **86.9%**となっている
 ※令和4年度調査：**89.2%**

- 入学した私立高校に対する満足度について聞いたところ、「満足」と「どちらかと言えば満足」を合わせた肯定的な意見としては、「全体を通して」では**86.9%**（**R4:89.2%**、**R3:76.2%**）と高い割合を示し、また、「部活動に関して（**78.7%**）」（**R4:74.8%**）を除いて、「特色ある教育活動に関して（**86.0%**）」（**R4:87.3%**、**R3:63.5%**）、「学校行事に関して（**84.8%**）」（**R4:81.2%**）、「進路指導面に関して（**84.5%**）」（**R4:86.7%**、**R3:67.6%**）、「学習指導面に関して（**84.4%**）」（**R4:87.0%**、**R3:73.8%**）、「教員に関して（**82.4%**）」（**R4:85.9%**、**R3:69.7%**）、「施設・設備面に関して（**82.3%**）」（**R4:82.4%**、**R3:70.4%**）、「生活指導面に関して（**81.1%**）」（**R4:83.4%**、**R3:67.1%**）では、8割を超える結果となった。

問4 高校等の受験時における志望（受験）状況について、あてはまるものを選択してください。

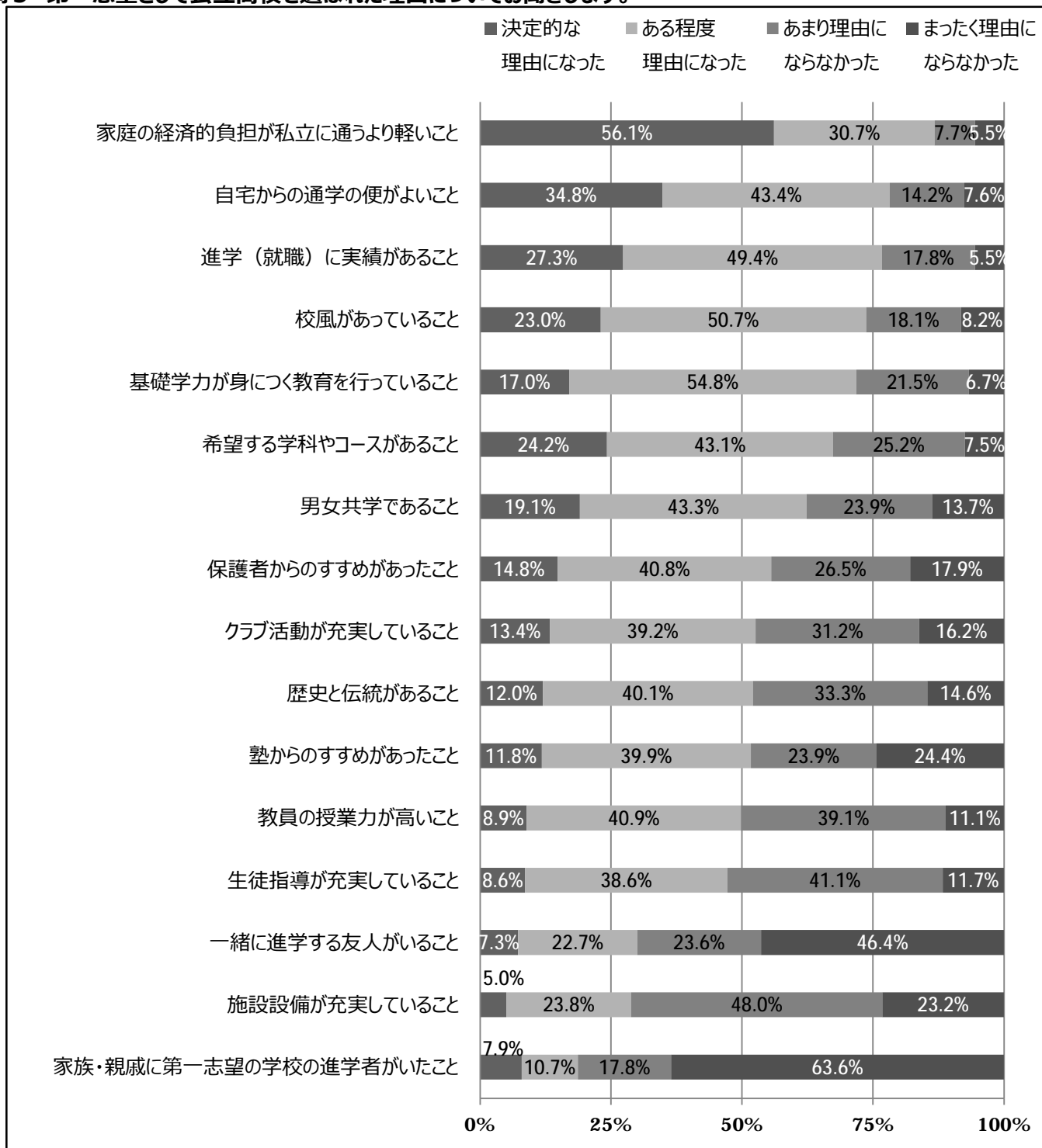


○ 「入学した私立高校が第1志望であり、専願受験した」は67.5%であった

※令和4年度調査：66.7%

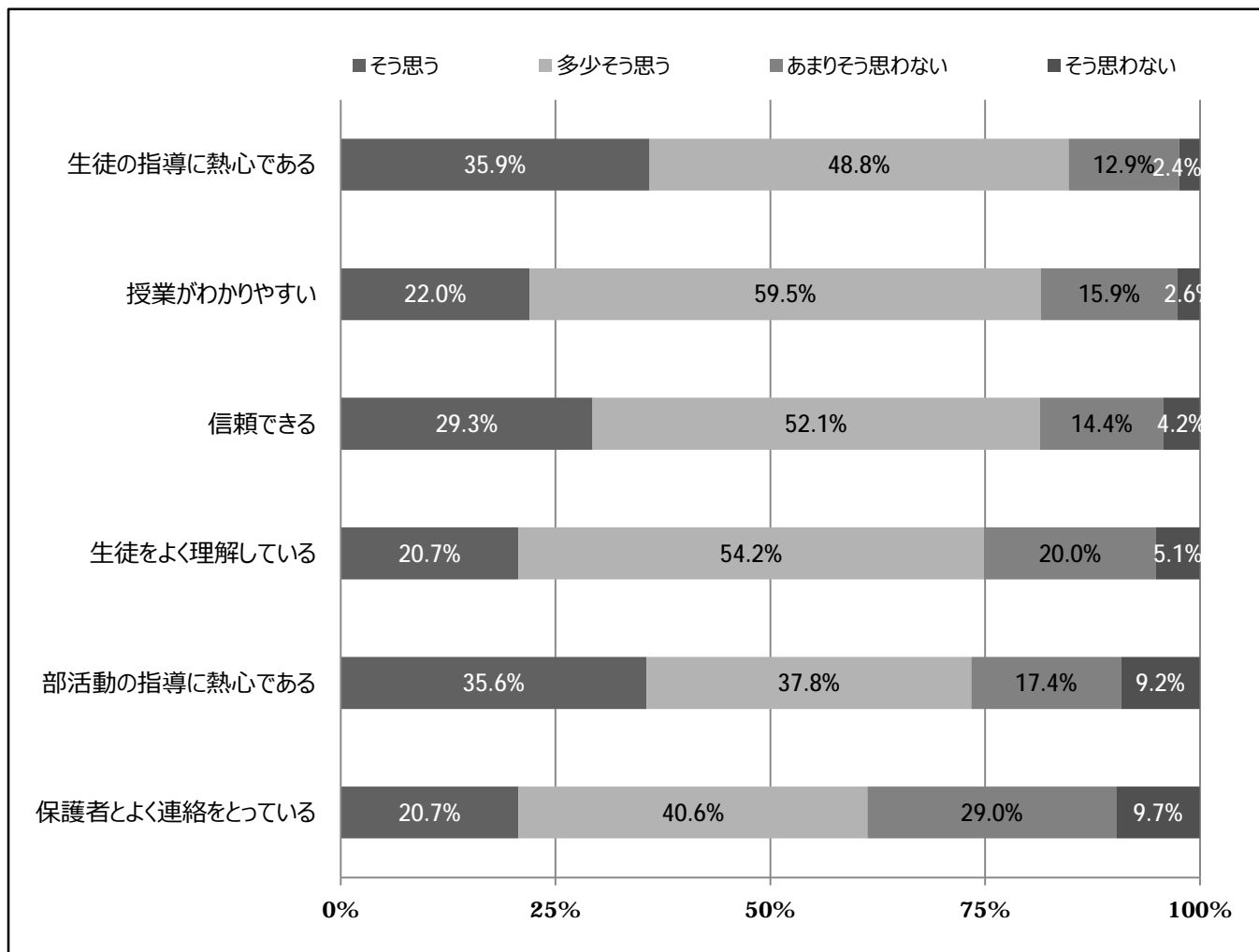
- 高校等の受験時における志望（受験）状況について聞いたところ、「入学した私立高校が第1志望であり、専願受験した（67.5%）」（R4:66.7%、R3:70.9%）が最も多く、次いで、「公立高校が第一志望であったが、入学した私立高校を併願受験した（27.4%）」（R4:27.8%、R3:22.6%）という結果となった。

問5 第一志望として公立高校を選ばれた理由についてお聞きます。



- **公立高校を第一志望に選んだ理由は、「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと」が86.8%と最も多い**
 ※令和4年度調査：「進学（就職）に実績があること（77.6%）」が最も多かった
- ・ 公立高校を第一志望に選んだ理由について項目を示して聞いたところ、「決定的な理由になった」と「ある程度理由になった」を合わせた肯定的な意見としては、「家庭の経済的負担が私立に通うより軽いこと（86.8%）」（R4:72.0%、R3:79.5%）が最も多く、次いで「自宅からの通学の便がよいこと（78.2%）」（R4:71.1%、R3:74.7%）、「進学（就職）に実績があること（76.7%）」（R4:77.6%、R3:73.7%）の順となっている。
- ・ 「あまり理由にならなかった」と「まったく理由にならなかった」を合わせた否定的な意見としては、「家族・親戚に第一志望の学校の進学者がいたこと（81.4%）」（R4:86.3%、R3:80.7%）が最も多く、次いで「施設設備が充実していること（71.2%）」（R4:51.3%、R3:60.8%）となっている。

問6 学校の先生について、お聞きします。

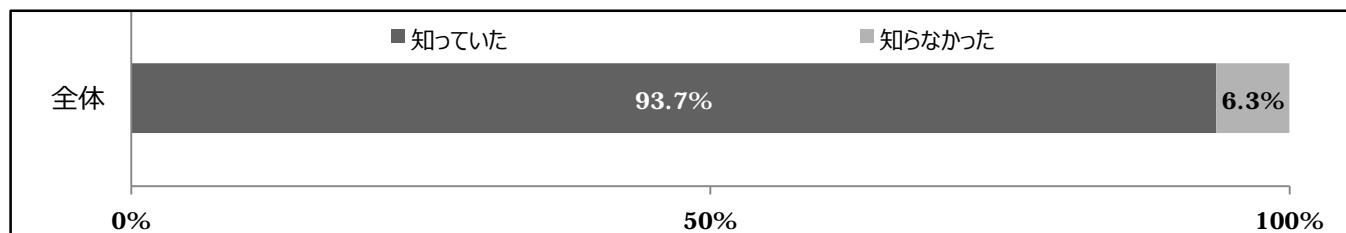


○ 学校の先生については、「生徒の指導に熱心である」が 84.7%と最も多くなっている

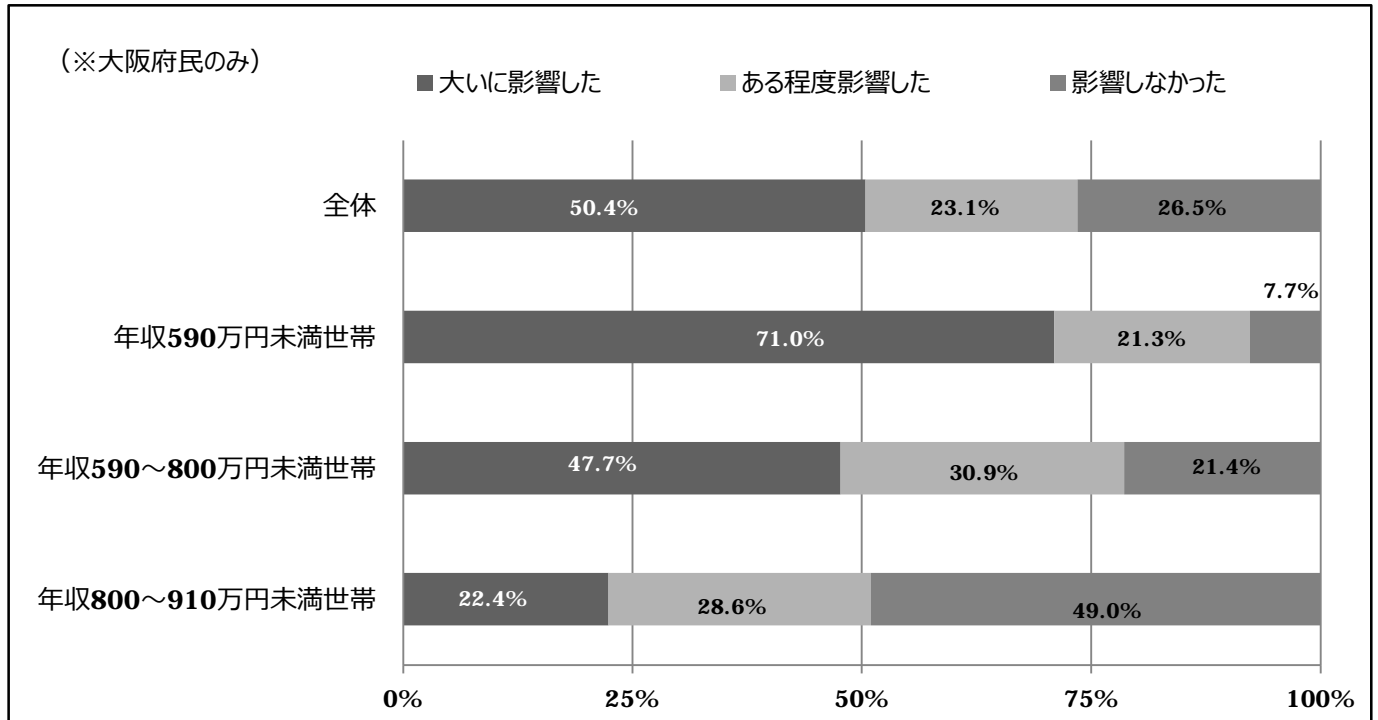
※令和4年度調査：「生徒の指導に熱心である（86.4%）」が最も多かった

- 学校の先生について聞いたところ、「そう思う」と「多少そう思う」を合わせた肯定的な意見としては、「生徒の指導に熱心である（84.7%）」（R4:86.4%、R3:71.8%）が最も多く、次いで「授業がわかりやすい（81.5%）」（R4:85.8%、R3:61.2%）、「信頼できる（81.4%）」（R4:84.2%、R3:67.1%）の順で多くそれぞれ8割を超えている。
- 「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた否定的な意見として最も多いものは、「保護者とよく連絡をとっている（38.7%）」（R4:36.0%、R3:9.0%）であった。

問7 お子様を私立高校に通わせるにあたって、私立高校等授業料無償化制度（授業料支援補助金）のことを知っていましたか。



問8 授業料無償化制度（授業料支援補助金）が、私立高校への進学にどの程度影響しましたか。

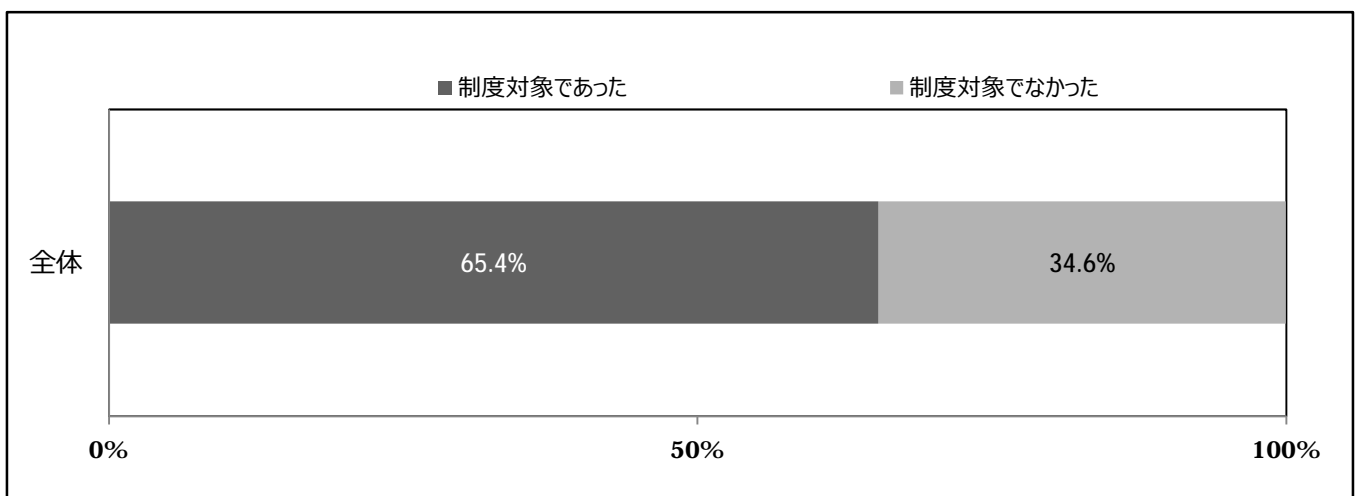


○ 大阪府に在住している保護者のうち、「授業料無償化制度が、私立高校への進学に影響した」とする割合は、**全体で73.5%**となっている。

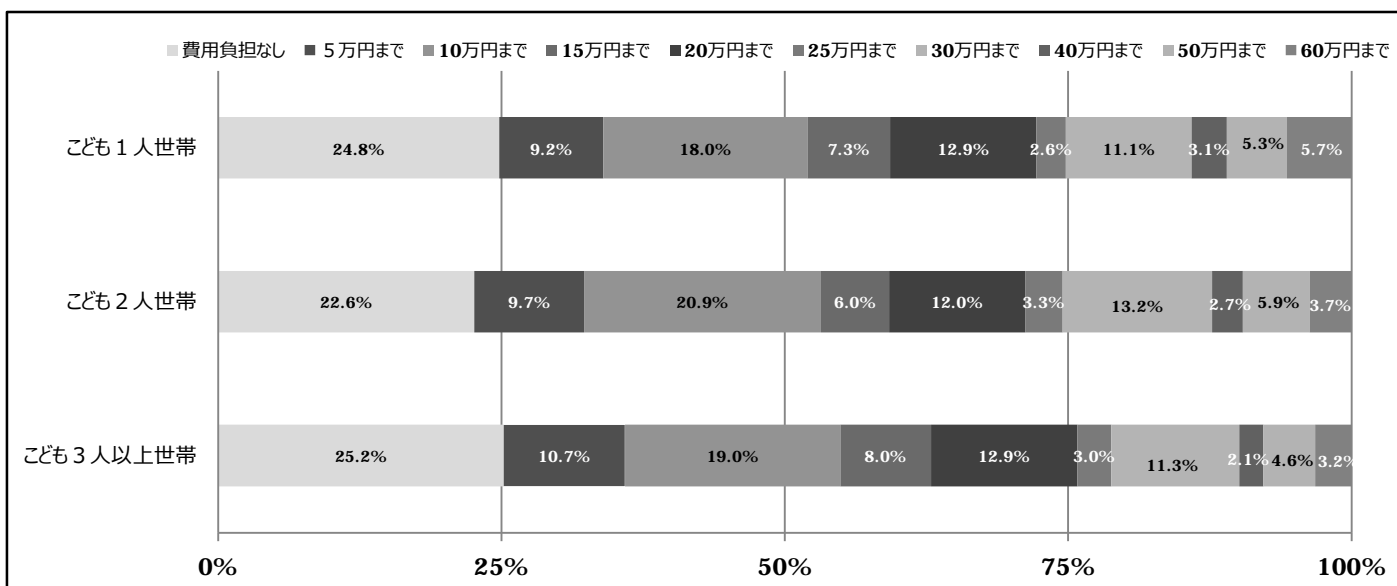
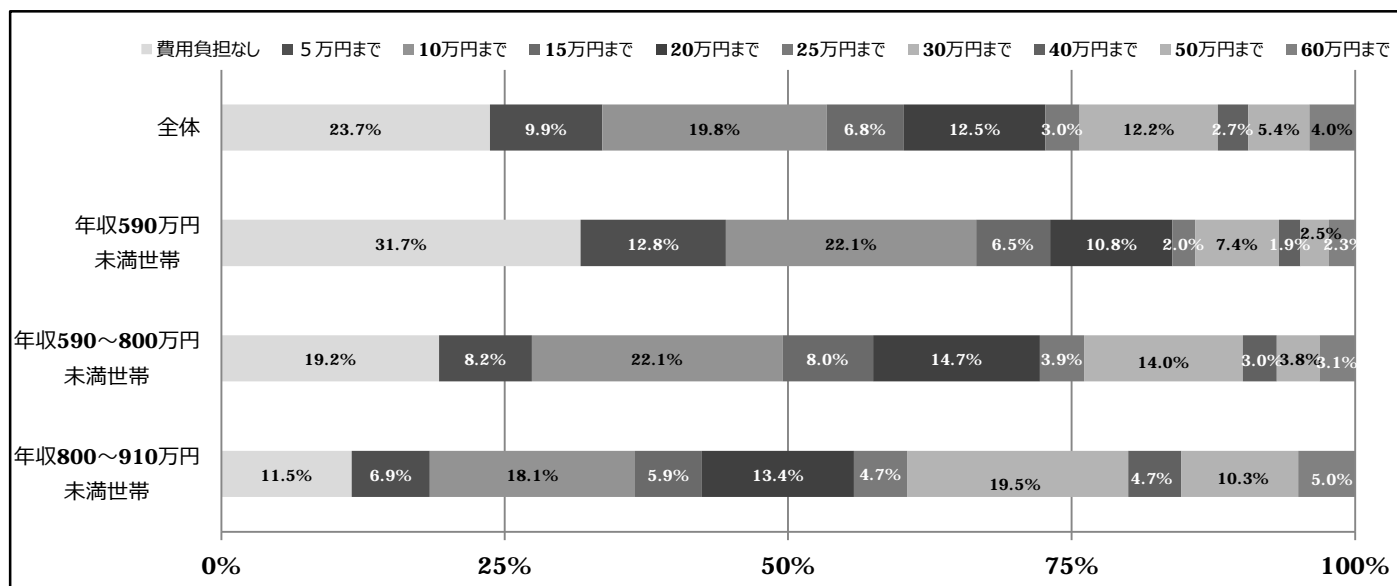
※令和4年度調査：77.8%

- 授業料無償化制度が私立高校への進学にどの程度影響したかを聞いたところ、大阪府に在住している保護者全体では、「大いに影響した」又は「ある程度影響した」とした割合の合計は**73.5%**（R4:77.8%）であった。
- これを世帯の年収で区分して見た場合、年収**590万円未満世帯**では**92.3%**（R4:97.1%）が影響したと回答している。また年収**590～800万円未満世帯**では**78.6%**（R4:86.7%）、年収**800～910万円未満世帯**では**51.0%**（R4:43.1%）となっており、世帯年収が低くなるほど、「影響した」と回答する割合が高くなっている。

問9 あなたは授業料無償化制度（授業料支援補助金）の対象でしたか。



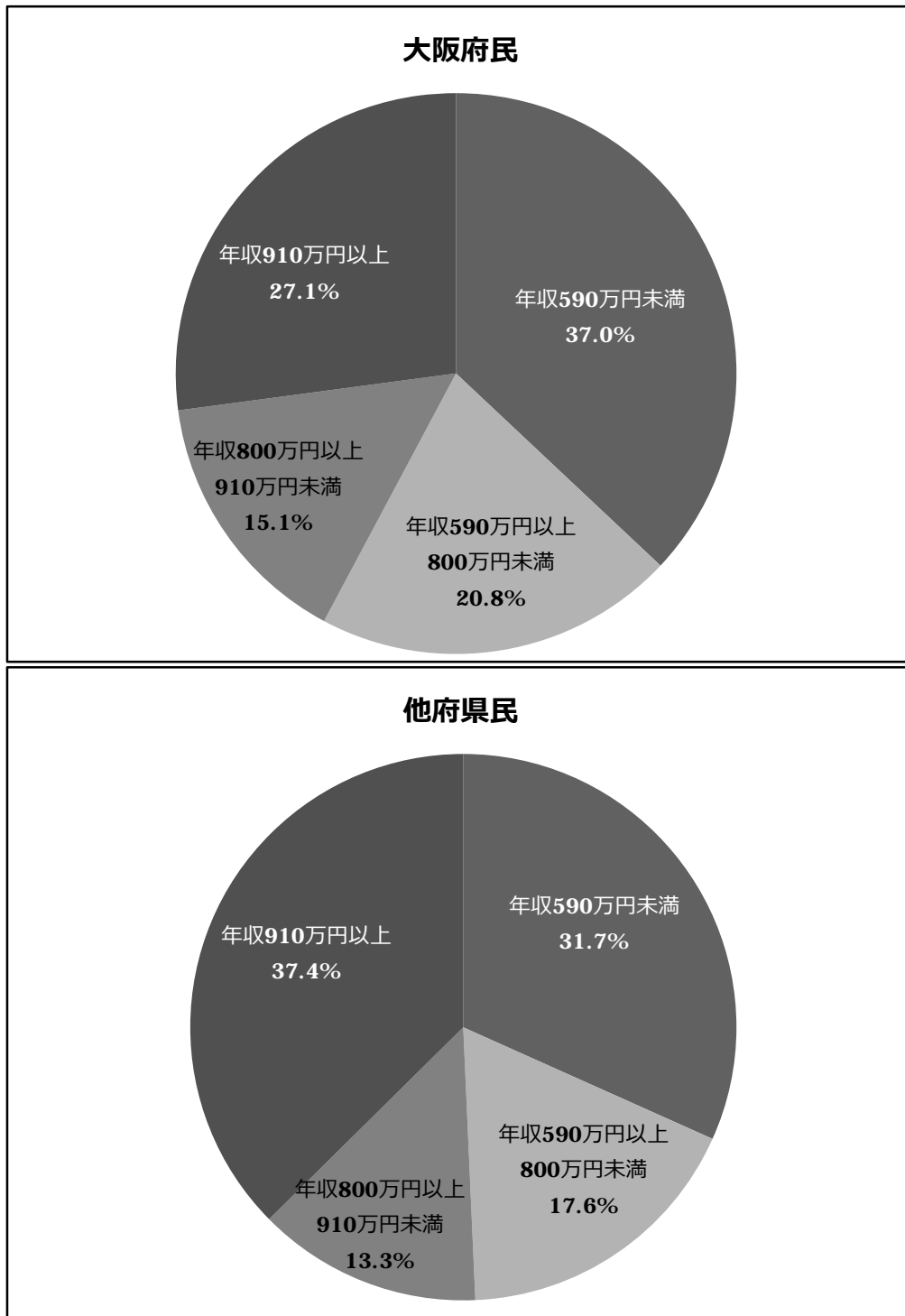
問10 私立高校の年間授業料（施設整備費を含む。）について、保護者負担額として妥当と思う金額はいくらですか。



○ 私立高校の年間授業料（施設整備費を含む。）について、保護者負担額としては、「費用負担なし」が妥当と思う割合が最も多く、全体の23.7%（R4:22.5%）となっている。

- 私立高校の年間授業料について、保護者負担額として妥当と思う金額を聞いたところ、「費用負担なし」が妥当と考える割合が最も多く、全体では23.7%（R4:22.5%、R3:16.0%）であった。これを世帯の年収で区分して見ると、年収590万円未満世帯では同じく「費用負担なし」とした割合が31.7%（R4:30.0%、R3:23.4%）と最も多かったが、年収590～800万円未満世帯では「10万円まで」とした割合が22.1%（R4:23.6%、R3:26.7%）で最も多く、また、年収800～910万円未満世帯では「30万円まで」とした割合が19.5%（R4:21.0%、R3:10.4%）と最も多くなり、年収が高くなるほど妥当と思う負担額が大きくなる結果となった。
- 世帯の子どもの人数（1人、2人、3人以上）で区分して見ると、いずれも「費用負担なし」が妥当と考える割合が最も多く（子1人:24.8%（R4:22.5%）、子2人:22.6%（R4:21.2%）、子3人以上:25.2%（R4:25.1%））、次いで「10万円まで」と考える割合が多い（子1人:18.0%（R4:22.0%）、子2人:20.9%（R4:19.9%）、子3人以上:19.0%（R4:17.3%））。

問11 あなたの世帯のおおよその年収をお尋ねします。



- **大阪府に在住している保護者のうち、世帯年収590万円未満の割合は37.0%、世帯年収800万円未満の割合は57.8%となっている。** ※令和4年度調査：590万円未満は42.3%、800万円未満は62.3%
- ・ 世帯の年収について聞いたところ、大阪府に在住している保護者については、590万円未満の割合は37.0%（R4:42.3%、R3:41.9%）、800万円未満の割合は57.8%（R4:62.3%、R3:65.3%）となっている。
- ・ なお、他府県から大阪の私立高校に通っている世帯の年収は、590万円未満の割合は31.7%（R4:34.7%、R3:35.7%）、800万円未満の割合は49.3%（R4:53.2%、R3:65.5%）となっている。